歴史探訪クラブ

其の165

History Inquiry Club

文化生涯学習課 ☎23局3635
FAX 22局3811

火山灰の恐怖

火山が多い日本では、火山の噴火による災害が深刻です。1990年代以降の長崎県雲仙普賢岳、北海道有珠山、東京都三宅島の噴火と火砕流、その後の泥流の被害の様子に衝撃を受けた人も多いと思います。

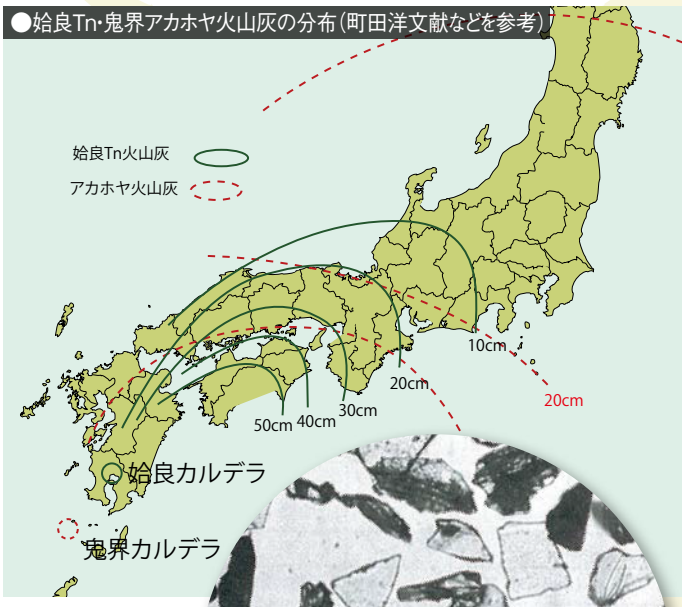
2014年9月の御嶽山の噴火により多くの方が犠牲となり、日本全国が深い悲しみに包まれました。悲しいけれど、日本の宿命なのかもしれません。渥美半島には火山がないので、比較的安心と思われるかもしれませんが、人が住み始めてから大規模な火山灰が2回も降り積もったことがあるのです。

◉姶良（あいら）Tn火山灰

この火山灰は、野田町で見つかっています。通称「姶良火山灰」とは、約2万5000年前に鹿児島県の桜島、鹿児島湾に囲まれた姶良カルデラの噴火によって噴出したものです。この大噴火による火山灰は偏西風に乗って、なんと東北地方南部にも降り注いでいます。中部地方でも10cmの厚さで積もっていることが確認されています。これは、旧石器時代の出来事です。

◉鬼界（きかい）アカホヤ火山灰

この火山灰は、縄文時代早期（約7300年前）に九州の薩摩半島の南沖約50kmにある鬼界カルデラの噴火による火山灰です。野田町山崎遺跡の発掘調査で、芦ヶ池の湖底にたまる火山灰が発見されました。そして、愛知県埋蔵文化財センターの分析によって「鬼界アカホヤ火山灰」と確認されました。



●姶良火山灰の火山灰ガラス

◉火山ガラスの特徴で特定

火山灰に含まれる「火山ガラス」は、火山ごとに特徴があり、見分けることができます。この2つの火山灰は広域火山灰と呼ばれます。文字の記録のない時代の調査において、遠く離れた土地の地層が同じ時代のものか確認するための大事な証拠として、地質学や考古学で活用されています。

そんな便利な火山灰。今日まで保存されるためにはいろんな条件があります。降り積もった火山灰が風雨で失われないうちに、新しい地層が速やかに覆う必要があり、このような状態で残ることは珍しいことです。

長い間に圧縮されて10cmの厚さになった火山灰。降り注いだ当時は、もっと厚く積もっていたことでしょう。明るい空が見たこともないような灰色に変わる様子に、人々はおびえ、なすすべも無く時間がたつのをひたすら待っていたに違いありません。例え降り止んでも、灰に覆われた台地にあぜんとしたことでしょう。これらの火山灰が人間の生活や自然に想像もつかない打撃を与えたことは間違いありません。

江戸時代の記録では、宝永の富士山の爆発で火柱が見えたといわれていますが、真偽は定かではありません。幸いにも、偏西風のため富士山の火山灰が渥美半島には積もることはありませんでした。

（増山）

今月の「表紙」

▼田原市で生まれて育って数十年。まだまだ知らない場所がたくさんあることに気付きました。山に登ったり、海に出てみたり、最近になって渥美半島の魅力にどっぷりとはまっている気がします。「みんな知らないけど、絶景が見られる場所」「廃れてきたけど、細々と続いている伝統」に心ひかれるこのごろ。（M）

【表紙の写真】清田池（清田校区・山田町）

広報たはら Tahara No.786 平成27年5月15日号
●編集・発行／田原市役所政策推進部広報秘書課
●電話／0531-22-1111（代表）
●Eメール／koho@city.tahara.aichi.jp

本誌は再生紙を使用しています。